

平成30年度 「ふれあい地域懇談会」報告書

＜ 大 船 地 域 ＞

日 時	平成30年7月17日（火） 午前10時～正午
場 所	鎌倉武道館 第1会議室
出 席 者	自治・町内会代表 27団体：28名 地域団体代表 3団体： 3名 計31名 鎌倉市 7名
内 容	第 1 部 市長からの報告..... P. 1 「持続可能な都市『鎌倉』を目指して」 第 2 部 地域の懸案事項に関する報告..... P. 19 ① 空き家、空き地対策について ② 大船東口の下水道管の整備について 第 3 部 本年度の地域の議題に関する懇談..... P. 23 ① 北鎌倉駅裏トンネル及び岩瀬隧道について ② ごみ焼却設備について （山崎浄化センター、今泉クリーンセンター） ③ 市役所移転後の支所機能について 付 録 当日配布資料..... P. 37

出席者名簿（敬称略）

【自治会・町内会等】

	団 体 名	氏 名	備 考
1	山ノ内上町町内会	友野 良雄	会長
2	山ノ内瓜ヶ谷町内会	鈴木 専二	会長
3	山ノ内明月会町内会	高木 総一郎	会長
4	山ノ内中町北町内会	山田 稔	会長
5	山ノ内下町上町内会	亀井 豊三郎	会長
6	山ノ内下町中町内会	関口 久男	
7	山ノ内下町下町内会	小泉 権七 石井 靖二	会長
8	富士見町町内会	武藤 博久	
9	末広町町内会	藤井 倫博	会長
10	戸ヶ崎町内会	伊勢 拓人	会長（司会）
11	戸ヶ崎あけぼの会町内会	山内 顯	会長
12	台町内会	根本 義治	会長
13	市場町内会	北村 充成	会長
14	つるまい町内会	秦 豊昭	会長
15	田園町内会	水島 三千夫	会長
16	大船仲通町内会	座間 幹夫	
17	松竹前町内会	岩崎 安男	会長
18	小袋谷町内会	内田 直生	会長
19	栄町町内会	野間口 徹	会長
20	南ヶ丘自治会	菅 暉夫	会長
21	谷之前自治会	山根 正博	会長
22	大船町内会	田子 祐司	会長
23	岩瀬町内会	織戸 武司	会長
24	今泉町内会	澤栗 巧	会長
25	今泉台町内会	尾島 隆史	会長
26	高野台自治会	島田 卓	会長
27	コープ野村鎌倉・台自治会	磯田 昭子	会長

【その他の団体等】

	団 体 名	氏 名	備 考
1	大船地区社会福祉協議会	梅澤 徳夫	
2	第七地区民生委員児童委員協議会	山ノ上 喜一郎	
3	第八地区民生委員児童委員協議会	村上 富造	

【鎌倉市】

	役 職	氏 名	備 考
1	鎌倉市長	松尾 崇	
2	共創計画部長	比留間 彰	
3	行政経営部長	齋藤 和徳	

4	環境部長	石井 康則	
5	都市整備部次長	森 明彦	
6	文化財部長	榊淵 規彰	
7	大船支所長	中野 達夫	

第1部 市長からの報告

【全地域共通】

平成30年度ふれあい地域懇談会 第1部市長からの報告



持続可能な都市『鎌倉』を目指して

鎌倉市長 松尾 崇

Takashi Matsuo Mayor of Kamakura

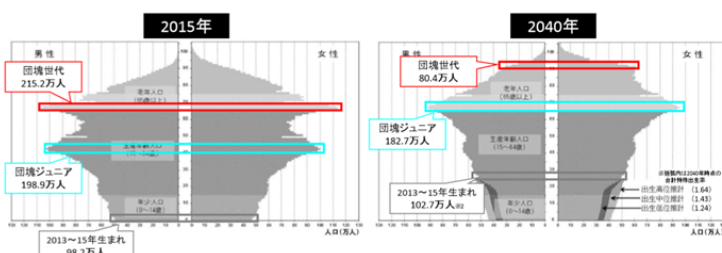
第32次 地方制度調査会

地方の行財政制度を検討する首相の諮問機関、第32次地方制度調査会が7月5日初会合を開いた。人口減の中、高齢化がピークを迎える2040年頃の自治体の姿を描き、必要な法整備を2年間かけて議論する。

安倍首相のコメント

「急速な少子高齢化、深刻な人口減少により歴史上、経験したことのない事態に直面する。具体的な解決策を幅広く検討いただきたい。」

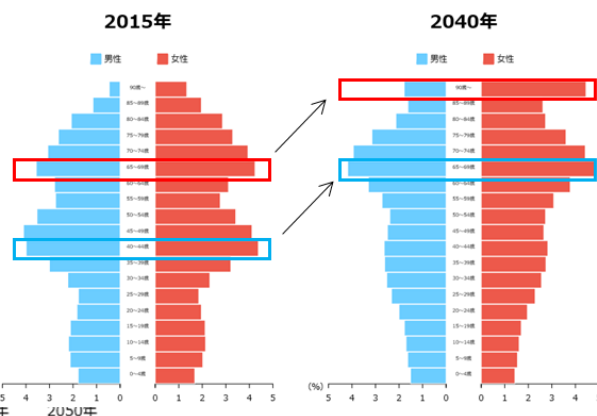
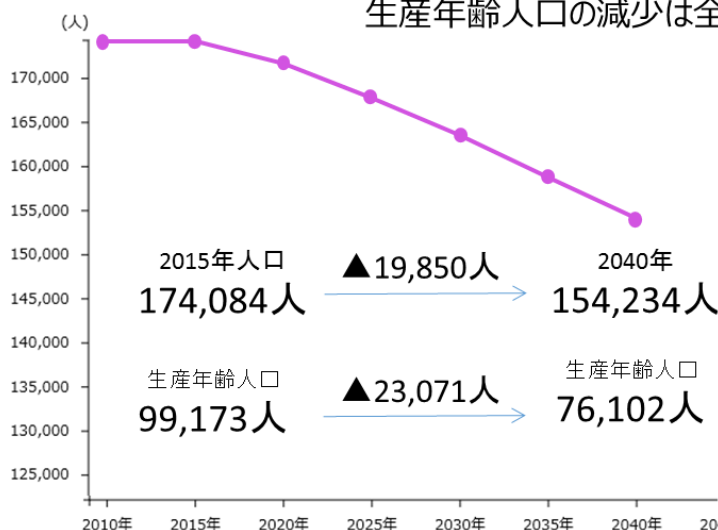
**15歳～64歳の働き手世代が
現在の7558万人から40年には5978万人と激減**



	出生数	2015年※1	2040年※1
団塊の世代 1947～49年生まれ	267.9万人 ～269.7万人	215.2万人 66～68歳	80.4万人 91～93歳
団塊ジュニア 1971～74年生まれ	200.1万人 ～209.2万人	198.9万人 41～44歳	182.7万人 66～69歳
【参考】 2013～15年生まれ	100.4万人 ～103.0万人	98.2万人 0～2歳	102.7万人※2 25～27歳

鎌倉市に目を向けると

人口は19,850人（11.4%）減少
生産年齢人口は、23,071人（23.2%）減少
生産年齢人口の減少は全国平均の20.9%よりも2.3%高い



鎌倉市が取り組むべき課題

急激な人口減少・少子高齢化の進行は、税収減・社会保障費の増につながる。この様な環境下において様々な課題にどう対応し、持続可能なまちづくりを進めるか。従来のシステムを根本から変えなくてはならない。

- 災害対策（地震・津波・異常気象など）
震度6弱以上の地震が30年以内に来る確立82%（横浜市）：政府地震調査委員会
- 一斉に老朽化する公共施設・インフラの維持管理
- 年間約2,000万人（入込観光客数）の観光客と慢性的な渋滞対策
- 高齢化進行が著しい住宅地の再生（安全安心・コミュニティ再生）

市民の暮らしを守る 「住みたい・住み続けたいまち」をつくる

鎌倉市政の抱える課題（社会インフラの維持管理）



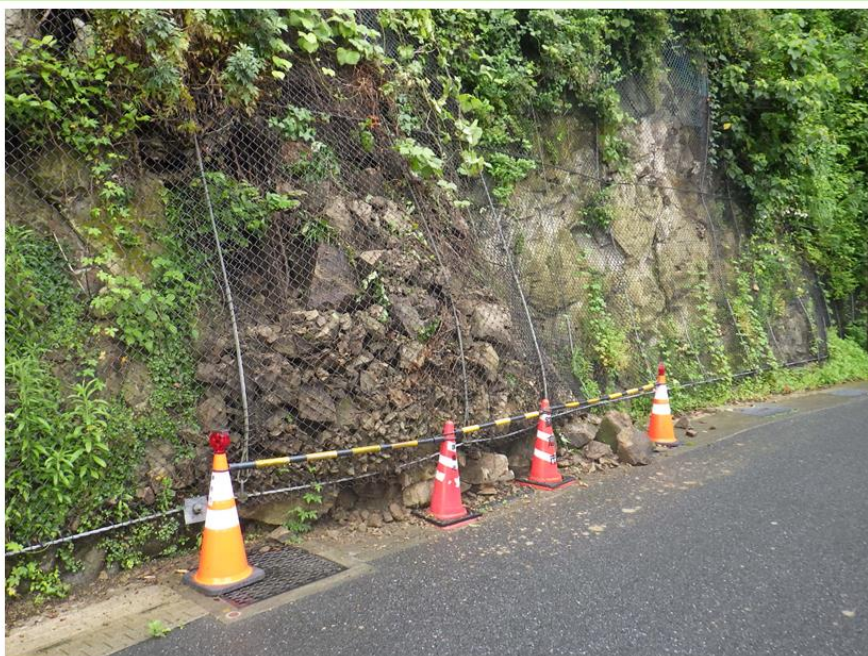
稲村ガ崎の崖の崩落により
下水道管が破損

鎌倉市政の抱える課題（社会インフラの維持管理）



岩瀬隧道内の上部の一部が崩落

鎌倉市政の抱える課題（社会インフラの維持管理）



第一中学校への通学路脇の崖で落石が発生

鎌倉市政の抱える課題（社会インフラの維持管理）

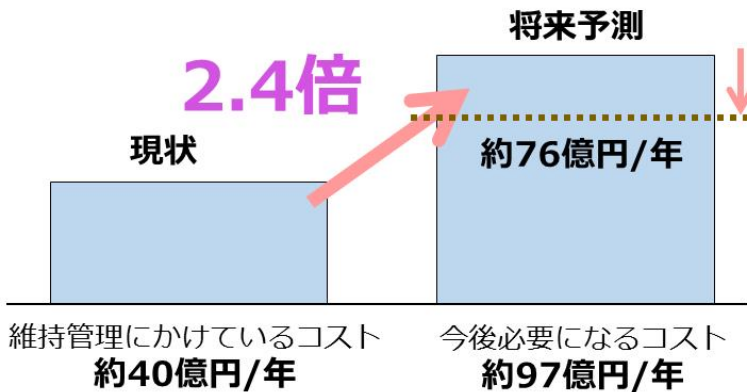
社会インフラの維持管理に必要となる経費は、**年間約97億円**。

現状の約40億円の**2.4倍**となる。

公共施設のように削減することができない。

鎌倉市社会基盤施設マネジメント計画

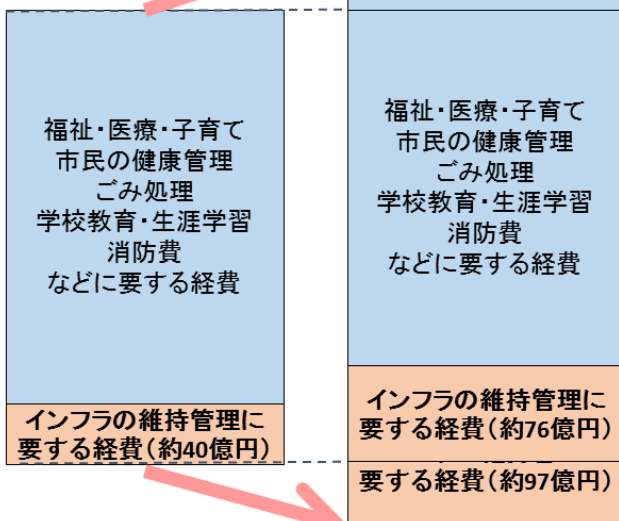
- ・ 管理水準の適正化
- ・ 予防保全型管理方式への転換
- ・ 民間の力を活用したコスト削減
- ・ 適正負担（受益者負担）の見直し
- ・ 災害時の事業継続の視点



鎌倉市政の抱える課題（社会インフラの維持管理）

現 状

将来予測



社会保障費などの増加
(さらに人口減少による歳入減)



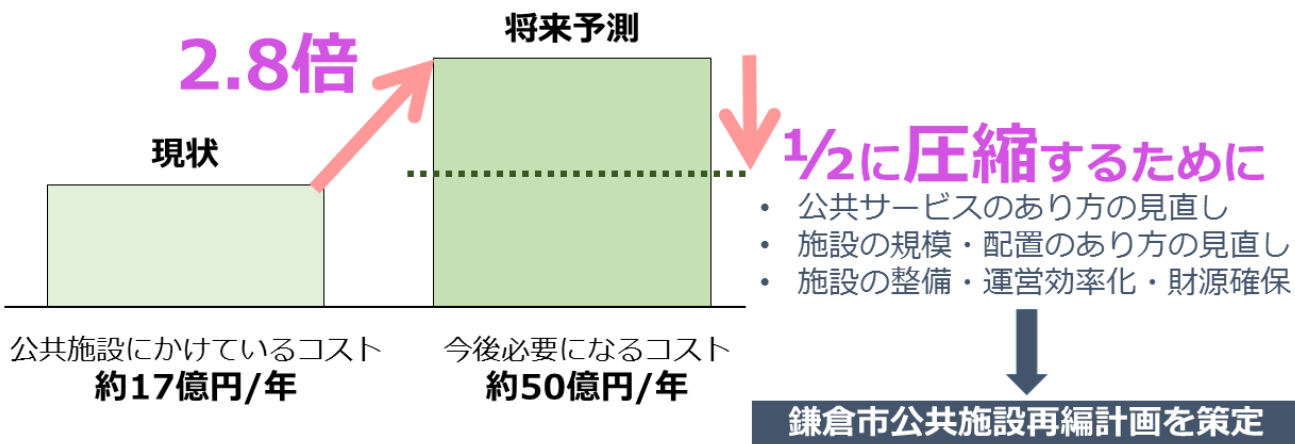
既存事業の見直し
公共施設の維持管理コストの削減



インフラの維持管理に要する経費
の増加

鎌倉市政の抱える課題（公共施設の再編）

老朽化が進む公共施設の維持管理に必要となる経費は、年間約50億円。現状の約17億円の2.8倍となる。



鎌倉市政の抱える課題（公共施設の再編）

市民の生命を守る災害対策（市役所本庁舎の整備）

建築から約50年

建物・設備の老朽化が進行

災害への備え

最低限の耐震強度はあるものの
防災拠点としての機能強化が必要

スペース不足

執務室の分散により、業務効率
市民サービスが低下

市民参画で検討を重ねる（h28～）



鎌倉市政の抱える課題（公共施設の再編）

◆ 建設コスト規模の比較（イメージ）

コストメリットが
最大の整備手法

現在地建替え

その他の主なコスト

現在地長寿命化

その他の主なコスト

移転

180億円は、必要な面積に近年の建設コストを乗じた数値
3.6億円 庁舎のコンパクト化や民間活力の導入に積極的に取り組み
整備コストを圧縮（税の投入を極力減らす）

約194億円

（現在地と別敷地合算）

約207億円

（現在地と別敷地合算）

約180億円

床面積不足による分散化
分散による施工単価増
仮移転によるコスト増

床面積不足による分散化
分散による施工単価増
仮移転によるコスト増
耐震改修による施工単価増

跡地の利活用による
さらなる効果

鎌倉市政の抱える課題（公共施設の再編）

移転場所を深沢地域整備事業用地に決定

現在地

駅前の便利な場所

市民・来訪者にとって快適で魅力的な場をつくる

市民に必要な窓口機能を残し
図書館・ホール等の機能を導入



津波避難ビル
としても機能

鎌倉の価値を
高める
相乗効果



移転先

新しいまちづくりが進む場所
災害に強く、市民が生き生きと健康に暮らせるまちをつくる

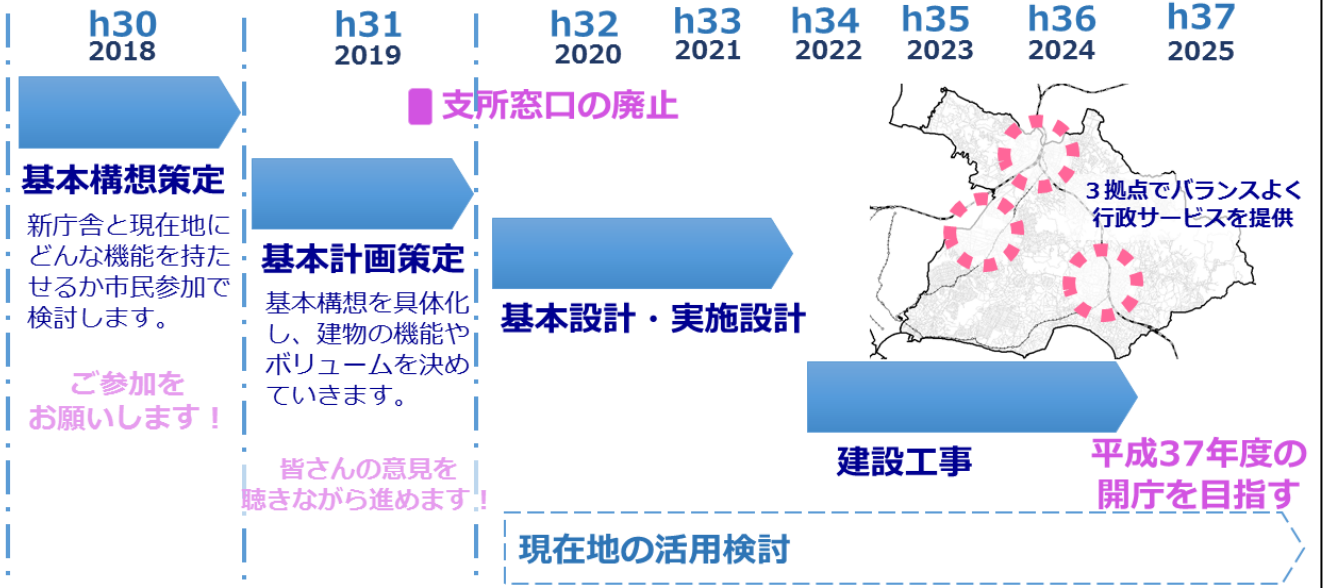
消防本部等との合築により
防災・健康等の価値創造



13

鎌倉市政の抱える課題（公共施設の再編）

今後のスケジュール



鎌倉市政の抱える課題（公共施設の再編）

移転場所を深沢地域整備事業用地に決定

現在地

駅前での便利な場所
市民・来訪者にとって快適で魅力的な場をつくる

市民に必要な窓口機能を残し
図書館・ホール等の機能を導入



窓口がなくなり不便になるのは困る

現在、本庁舎の1階にある市民サービスのための窓口は、残ります。ICTの活用やコンシェルジュ機能の導入により、利便性の向上に配慮します。

災害時にどうすればよいのか

これまで同様、災害時の支援機能は維持します（この場所に、職員も残ります。）。また、津波避難ビルとしての機能を持たせません。

「民間活力」として商業施設になっては困る

まずは、周辺の公共施設（学習センター・図書館など）を集約し、市民が集える場所とします。さらに多機能を導入し、市民・来訪者にとって快適で魅力的な場をつくりたい。今後、皆さんとともに考えていきます。

例えば…このような場所(シリウス：大和)をイメージしています



大和市文化創造拠点シリウス
(大和駅から徒歩3分の場所にあります)

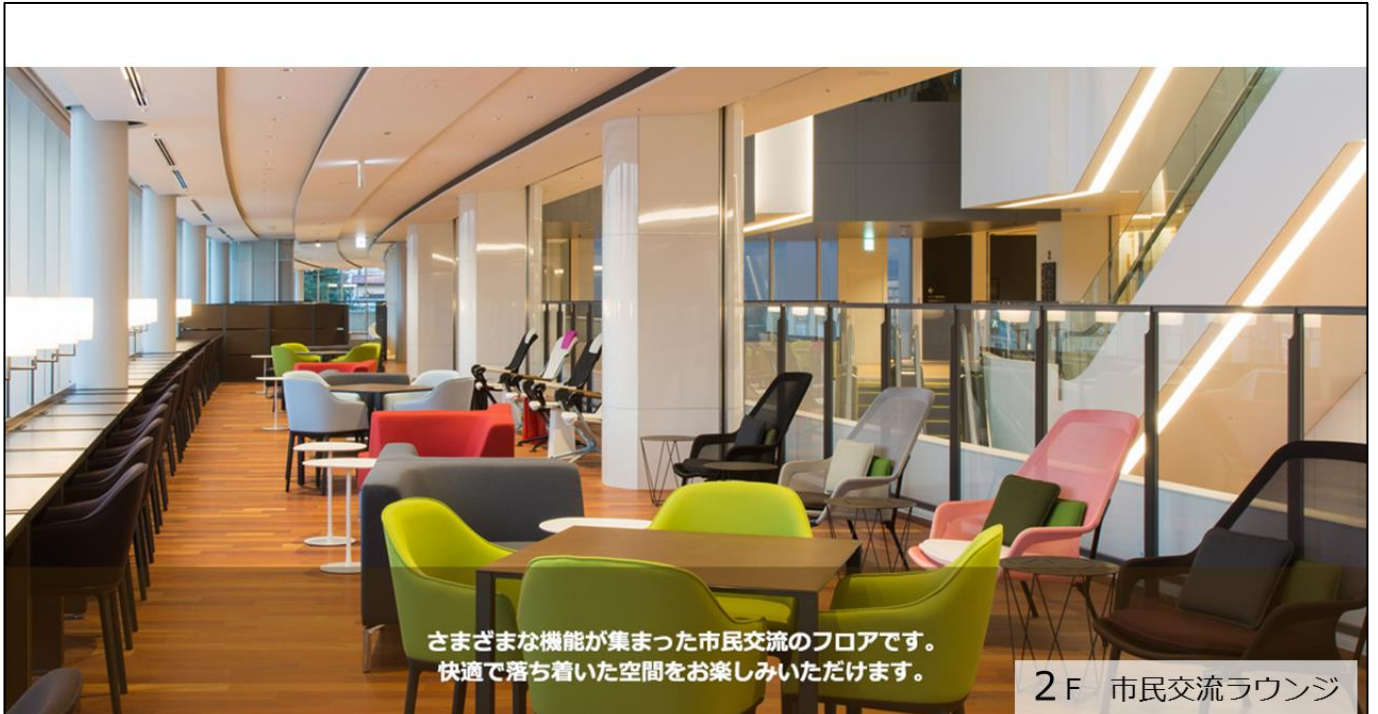


1F エントランス
1F~5Fの各フロアに図書館があります



2つのホールとギャラリーを備えるフロアです。トップアーティストによる公演や展覧会など、身近に芸術文化に触れる機会を提供します。また、市民のみなさまの手による文化活動の発表の場としてもご利用いただけます。

メインホール。1Fには、サブホールやギャラリーもあります。



さまざまな機能が集まった市民交流のフロアです。
快適で落ち着いた空間をお楽しみいただけます。

2F 市民交流ラウンジ

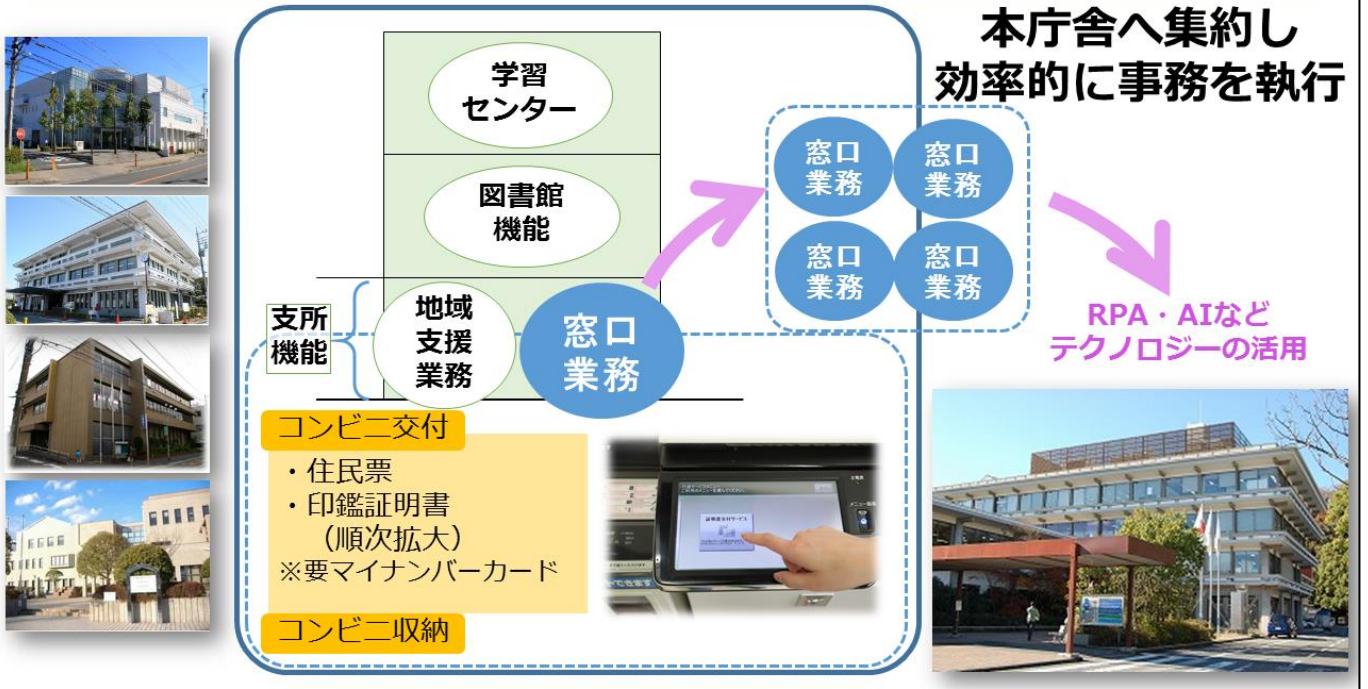




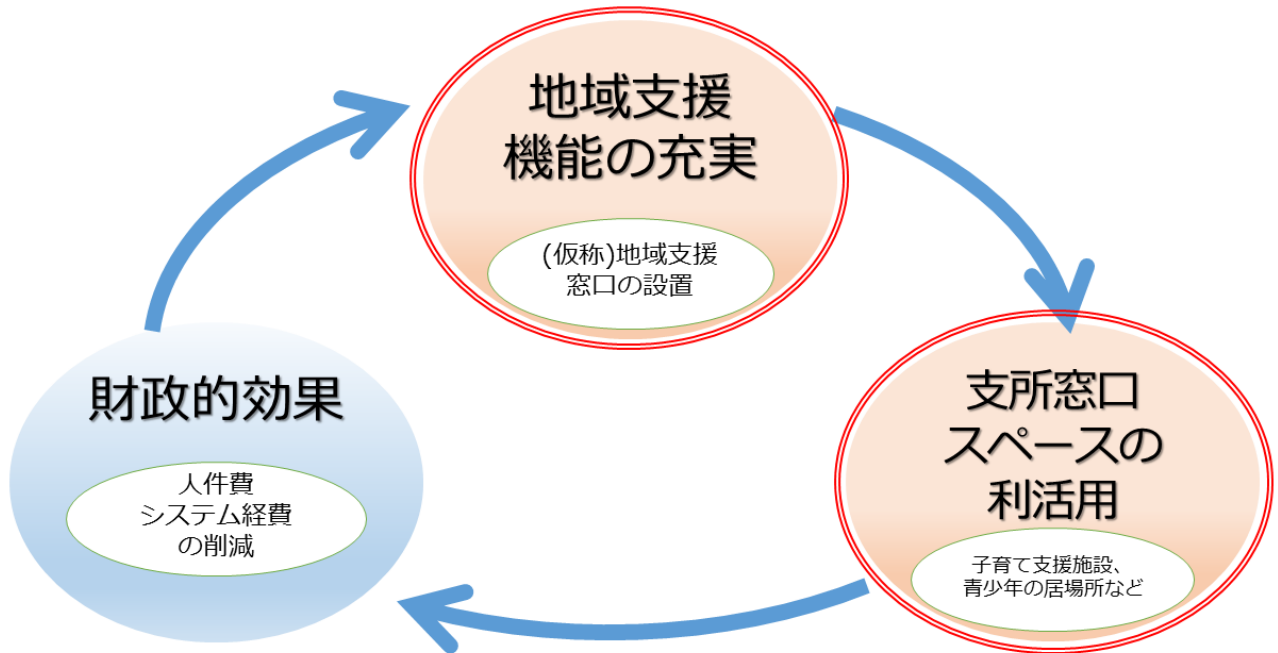


6 Fには、市民交流スペースがあります

鎌倉市政の抱える課題（公共施設の再編計画）



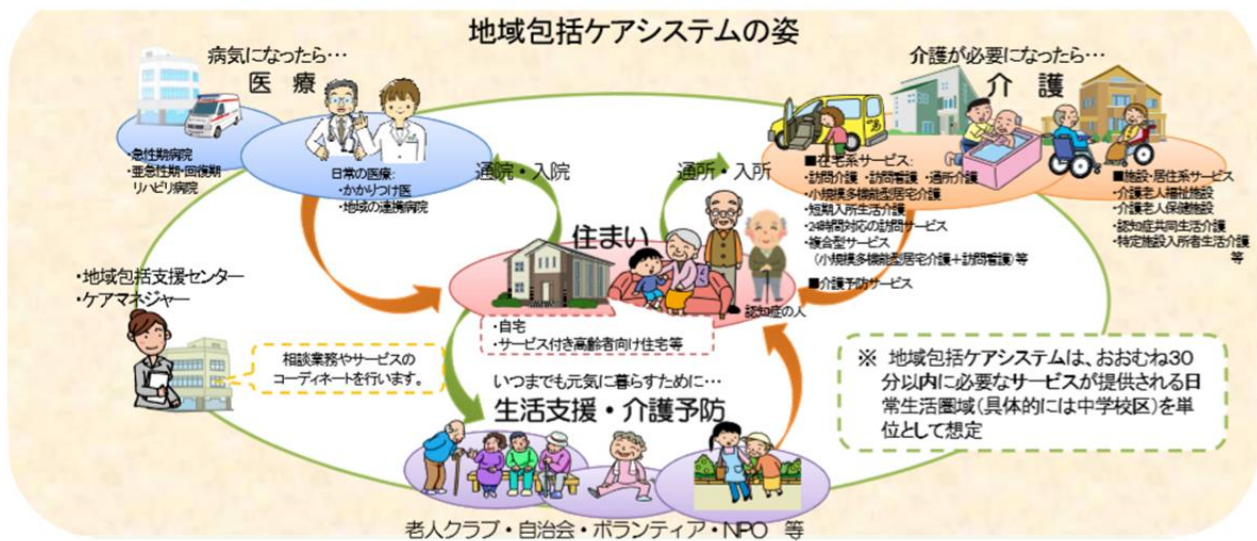
鎌倉市政の抱える課題（支所業務のあり方）



鎌倉市政の抱える課題（住み慣れた地域で生活するために）

『住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるまち』をつくる

地域で医療・介護・予防・生活支援・住まいを一体的に提供



鎌倉市政の抱える課題（住み慣れた地域で生活するために）

産学官民の連携により「地域で地域の課題」を解決する、まちをマネジメントしていく仕組みをつくる

鎌倉リビングラボの全市展開



鎌倉市政の抱える課題（渋滞対策）

現状：鎌倉の観光拠点である鎌倉地域は、休日を中心に著しい交通渋滞が発生

これまでの取組

- 鎌倉市交通計画研究会(平成8年度設置)
 - ・市民、学識経験者、交通事業者、関係行政機関等で構成し、地域の交通問題の改善に係る20の施策を提案し、実施可能なものから順次実施
- パークアンドライド(平成13年度より実施)
 - ・鎌倉地域周辺の所定駐車場(4箇所)で公共交通機関(江ノ電、シャトルバスなど)への乗り換えを実施(利用促進策として協賛店での料金の割引やサービスを実施)
- 鎌倉フリー環境手形(平成13年度より実施)
 - ・鎌倉地域の主要観光地をカバーする5路線のバスと江ノ電の鎌倉駅~長谷駅間が1日乗降自由になる切符を販売(利用促進策として協賛店や神社等で割引等を実施)

⇒ 抜本的な交通渋滞の解消は出来ていない



課金により流入交通量をコントロールする**ロードプライシング**を検討

鎌倉市政の抱える課題（渋滞対策）

・課金の方向性

課金の方向性について、特別委員会では、次のとおり、基本的な事項をとりまとめました。

項目	内容
①対象エリア	<u>国道 134 号を除く鎌倉地域とする。</u>
②対象日	<u>全ての土日祝日等(年間 120 日程度)とする。</u>
③課金時間	8 時から 16 時までを基本する。
④課金単位	1 回ごとに課金(課金箇所に流入 1 回につき課金)する。
⑤課金対象	鎌倉地域に流入する全ての自動車、二輪車とする。 (緊急車両、福祉車両、障がい者等の車両、路線バス、タクシー、宅配車両、市内に事業所や店舗等がある業務車両は除く。)
⑥課金パターン	市外からの流入車両を 1 とした場合、 <u>市民の負担割合は 0~0.1 程度とする</u>
⑦課金の使途	システムの運営・管理費、公共交通への転換方策等に充てる

これらの条件を基に法制度面等と併せて、検討を進めています。

鎌倉市政の抱える課題（渋滞対策）

今後の予定

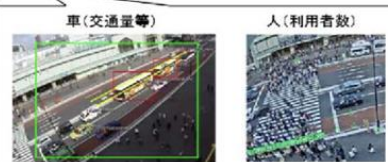
- ・「第 3 次鎌倉市総合計画第 3 期基本計画後期実施計画（H29~H31）」に基づき、自動車利用の抑制策等を踏まえた交通シミュレーションを実施し、平成 31 年度に本市で「(仮称)鎌倉ロードプライシング」の社会実験を実施する予定です。
- ・平成 29 年 9 月に国土交通省の「観光交通イノベーション地域」に鎌倉市が選定されました。現在、ICT、AI 等の技術を活用し、エアプライシングを含むエリア観光渋滞対策のためのデータを収集しています。

(仮称) 鎌倉ロードプライシングの概要とシステムイメージ



AIカメラ

AIによる画像処理で交通量調査、自動車起終点調査をIT化



ETC2.0による通信



ETC2.0車載器と路側機との通信により、プローブ情報(位置、速度、急ブレーキ、経路等)を収集

鎌倉市政の抱える課題（渋滞対策）

課金による渋滞解消
課金による財源確保



環境保全

通過交通の排除・渋滞解消により
CO2削減

ロードプライシングの実施コストの他

魅力的な空間創出（歩道・ポケットパーク・サイクリングロードなど）

舗装や交差点改良・交通案内の充実（ICTの活用など）

鎌倉の歴史・文化遺産の継承・活用

まち並みの美観向上・緑化促進

市民・来訪者（負担者）ともに快適なまちへ

歩いて楽しいまち
コミュニティの向上
消費拡大・地域産業の活性化

地域活性化

公共交通による移動快適
緊急自動車等のスムーズな運行

安全・安心

鎌倉市政の抱える課題（健康づくり）

市民の健康づくり活動を支援し、
生活習慣の改善や健康寿命の延伸
を図る

- 健康づくりに取り組むことでポイントが貯まり、貯まったポイントで景品が当たる抽選に応募できるサービスを提供し、市民の健康づくりを応援
- 健診結果等の見える化を図ることで生活習慣の改善及び健康寿命の延伸を図る
- 市内企業等と連携した健康経営の推進

歩いて健康！参加してオクト！
かまくらヘルシーポイント

歩いた距離
3月31日(土)
16,867
歩数

歩いた距離
478.2km
歩数
145万
歩数
12.2km

1日の歩数
AVG 0歩
歩数
0歩

1日の歩数目標 (8,000歩)

チャンスは常々！
ポイント数に応じて豪華プレゼントが当たる！

3000ポイント
ローソンでの消費品
ポイント交換

3000ポイント
メーカーオリジナル
ギフト券

1000ポイント
豪華景品
鎌倉市立美術館のチケット

※景品は一例です。この他にも様々なプレゼントをご用意しています。

[PickUp] タニタの健康コラム
サプリメントを服用した女優
サポートで肉離れから回復したり
ストレッチや疲れを大きく感じ
ているときには、栄養を...

[新着記事] タニタの健康コラム
夜寝る人は元気が口元から
さういふ感じがなる方。口
元が元気がなくなる方...

手入が不要！自動でグラフ化
体組成計などの対応機器を使
えば、測ったデータを自動で
転送！ダイエツグラフとして
簡単管理できます。

歩数ランキングをぜひ見よう
歩数ランキングをぜひ見よう
歩数ランキングをぜひ見よう
歩数ランキングをぜひ見よう
歩数ランキングをぜひ見よう

インフォメーション

第1部 市長からの説明に対する意見・質疑

<山ノ内下町上町内会・亀井会長>

市役所移転の際には、特別決議で議会の3分の2の承認を得る必要があるとのことだが、今回も市役所移転の日に承認を得ることになるのか。

<松尾市長>

まだ具体的に日にちは決まっていないが、判例等から言っても、承認を得るのは今ではなくもっと先の話になる。

第2部 地域の懸案事項に関する報告

【大船地域】

平成30年度 ふれあい地域懇談会



大船地域

- 空き家、空き地対策について
- 大船駅東口の下水道管の整備について

空き家、空き地対策について

【都市整備部 住宅課】

空き家を
増やさない

空き家を
適切に
管理する

**鎌倉市空家
等対策計画**
5つの重点対策

実施体制
を整える

空き家を
利活用する

効果的に
指導する

空き家、空き地対策について

【都市整備部 住宅課】

空き家を
増やさない

- ・ 広報かまくらに空家対策の特集を掲載
- ・ 固定資産税の納税通知に空家リーフレットを同封
- ・ 各地域の自治町内会連合会の場で説明

空き家を
適切に
管理する

- ・ 空き家に関する相談対応や管理が適切でない空き家の所有者等に対し、改善や適正管理を求める通知

空き家を
利活用
する

- ・ 取り組みを検討中

効果的に
指導する

- ・ 鎌倉市特定空家等に対する措置に関する対応指針に基づき対応中

実施体制を
整える

- ・ 空き家の相談窓口を住宅課に設置
- ・ 今後は不動産や法律関係を取り扱う団体等と連携し、総合的な相談窓口として対応ができるよう検討

空き家、空き地対策について

【環境部 環境保全課】

鎌倉市空き地の環境保全に関する条例に基づき、把握している空き地の現地調査を行い、所有者等に草刈りなど適正な維持管理を促す通知を送付

その後、再調査を行い、適正に管理されていない場合、再度、通知を送付するなど、所有者等に粘り強く適正な管理を促しています

平成29年度の対応実績

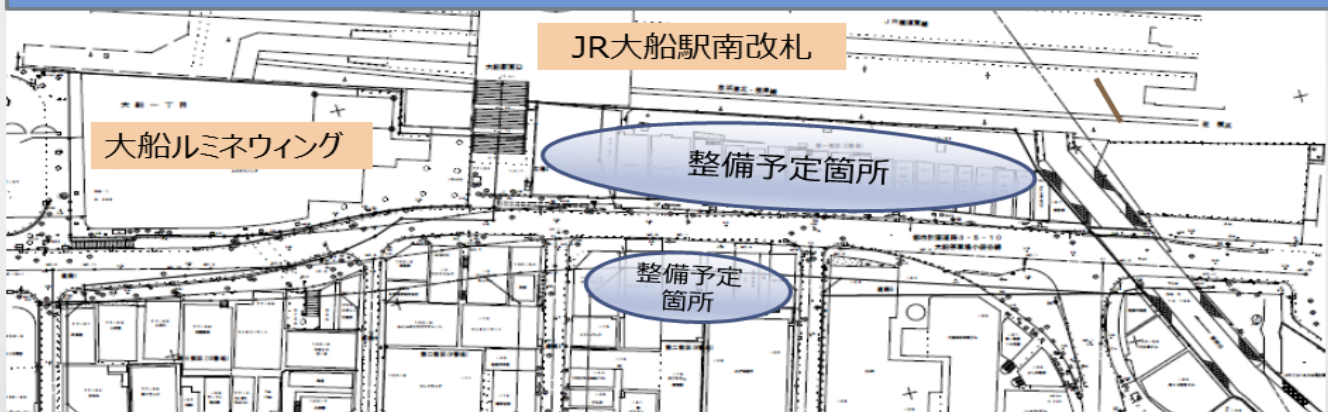
・通知(6月)143件 ・再通知(10月)49件 ・再々通知25件

所有者等が、空き地を利活用して、適正な維持管理の意向等があれば、利活用支援の協議を行っていきます

大船駅東口の下水道管の整備について

【まちづくり計画部 再開発課】

臭気等の改善を求めるとともに、下水道管への接続意思のある方が半数以上確認できたことから、下水道管の整備を進めていくこととしました



整備スケジュール（予定）

- 平成30年度（設計業務、地下埋設物調査）
- 平成31年度（下水道管整備の本工事を実施）

第2部「地域の懸案事項に関する報告」に対する意見・質疑

質疑応答なし

第3部

本年度の地域の議題に関する懇談

大船－H30－1	北鎌倉駅裏トンネル及び岩瀬隧道について
大船－H30－2	ごみ焼却設備について (山崎浄化センター、今泉クリーンセンター)
大船－H30－3	市役所移転後の支所機能について

平成 30 年度ふれあい地域懇談会（第 3 部） 回答票

番 号	大船－H30－1
テ ー マ	北鎌倉駅裏トンネル及び岩瀬隧道について
内 容 詳 細	北鎌倉駅裏トンネルの開通が遅れているが、通学路の安全確保のためにも、早期の開通をお願いしたい。今後の予定はどうなっているか。また、岩瀬隧道の現況及び今後の予定はどうなっているのか。
担 当 部 課	都市整備部 道路課

議題に対する回答等

【北鎌倉隧道】

北鎌倉隧道については、現在地権者の協力のもと、地形測量や地質調査等を実施しており、その成果を基に、昨年度まとめた3案の対策工法の基本設計の検討を行うこととしています。

その後、その成果を基に市民の方々などの意見等を聴く場を設け、市が最終案を決定後、直ちに詳細設計を実施し、地権者や関係機関との協議が整い次第、工事に着手したいと考えています。

また、通行禁止から既に3年が経過し、一日も早い通行再開が喫緊の課題であることから、仮設トンネルの設置についても地権者の協力が得られるよう取組んでいます。

なお、小学校児童の通学路確保のため、JR 北鎌倉駅ホームを通行できるよう JR とも相談を行っています。

【岩瀬隧道】

岩瀬隧道は、平成 30 年5月 29 日早朝に素掘り天井部分から約 1.5 m³の土砂がはく落したため、現在、通行禁止としています。

当該隧道は、全長約92mあり、中央部の約46mが素掘りで、残りの両坑口約46mがコンクリートブロック覆工となっています。

【次ページあり】

今回、はく落した素掘り部分の復旧工事を先行して平成30年11月15日まで行い、並行してコンクリートブロック覆工部の詳細な調査を実施した上で工法を決定し、工法が決定次第、対策工法の追加工事を行う予定としています。

そのため、全ての復旧工事の完了は平成31年3月末までとしています。一日も早い通行再開できるよう努めてまいります。

なお、隧道内の照明については、復旧工事にあわせライナープレートの側面等に設置することとしており、現在の照明より明るくなります。

また、通行禁止に伴う代替の通学路の確保については、教育委員会と調整したうえで路線を選定し、作業センターが路面の整備や支障になる樹木の伐採を完了しています。

現在、夜間照明について専門業者と調整し進めており、この照明設置が完了した段階で生徒に対し、代替通学路として使用してもらうよう教育委員会に依頼してまいります。

添付資料	
------	--

<戸ヶ崎町内会・伊勢会長>

テレビ番組では、地権者は仮設で良いと言っていたが、なぜ、工事が進んでいないのか。

<松尾市長>

地権者に、正式に仮設工事を進めたいという書類を持参したが、受け取ってもらえなかった。仮設工事を進めるのと同時に本設についても進めている。

岩瀬隧道は、議会の議決を後から取る専決処分という手続きを行い、早急に対応できるよう進めている。

<山ノ内下町中町内会・関口氏>

円覚寺や雲頂菴が問題としているのは、文化財的価値があるかどうかではないか。手続き上の問題としてすり替えないでほしい。

トンネルがある地元の意見としては、なぜ仮設なのか理解できない。本設も今年度に着工完成の話であったが、何もできていない。仮設はいらないので本設を早くしてほしい。

文化財的価値については町内会では疑問を持っている。平成26年度の文化財専門委員会でも、尾根は鉄道開通で半分以上損なわれているので、記録を残すことは必要だが、安全対策との兼ね合いで必ず残さなくてはならないものではないとされている。文化財的価値を検証し、価値が認められないなら早く開削工事を始めてほしい。

<山ノ内瓜ヶ谷町内会・鈴木会長>

6月5日に円覚寺庶務部長の方と話をした。雲頂菴との関係性について聞いたところ、円覚寺としては、市がやることには反対しない、円覚寺が悪者になりそうで心配だと言っていた。仮設に対しては市が安全と判断するならば、円覚寺も雲頂菴も了承すると言っていた。ところが、5月18日に、鎌倉市と円覚寺で行った話し合いの議事概要によると、円覚寺側からの要望は、尾根に対する意見が変わったことの説明を文化庁に求める、安全対策工事について、開削での実施を検討してほしいとなっていた。円覚寺は、市に言っていることと市民に言っていることが違うのではないかと。市民は本当のことをが分からない。

<文化財部・榊淵部長>

平成26年度の文化財専門委員会では景観などの観点で議論はあったが、尾根の文化財的価値を観点とした議論はしていない。開削着工となった時に、文化庁から、文化財としての価値があるかどうか第三者委員会を設けて検討すべきとの指摘があった。平成28年7月8日に価値があるかどうか検討し、結果歴史的学術的価値があるとなった。円覚寺に円覚寺境内絵図という鎌倉時代後半の円覚寺の様子を描いている重要文化財があり、その絵図に描かれている尾根の一部と今現在残されている尾根がほぼ合致している。

歴史資料と現地の状況が一致しているため文化財的価値があるとなった。文化財専門委員会の検証で円覚寺境内は史跡の指定を受けているので、それに追加する形で指定するべきではないかという話にな

った。これを円覚寺に報告している。5月18日の協議会は、境内の史跡の保存管理計画を円滑に行うものであり、北鎌倉隧道について説明したが、円覚寺は、開削案も加えて検討してほしいということであった。文化財的価値があるので、市としては開削の選択肢はないのだが、なかなかご理解いただけない。

<戸ヶ崎町内会・伊勢会長>

いつ通れるようになるのか。

<都市整備部・森次長>

北鎌倉隧道は地形測量、ボーリング調査をしてとりまとめている。人だけ、小型車両まで、あるいは救急車まで、何を通すのか基本設計を行い検討する。それから詳細設計に入り、発注になる。

<山ノ内明月会町内会・高木会長>

山ノ内には8つの町内会があり、開削か残すか、意見はさまざまだが、どちらにしても大変困っているのだとにかく通してほしい。市長の口からはっきり聞きたい。

<松尾市長>

本設では調査や実施に時間がかかるため、仮設を実施したいと思っているが地権者の理解が得られていない。予算はあるのですがすぐに始められるのだが、理解を得られるよう努めている。

<山ノ内明月会町内会・高木会長>

予算もあるならば皆仮設を通してくれると思っている。仮設はやめたのか、それとも仮設を通す見通しは立っているのか。

<松尾市長>

仮設を通すつもりで予算も計上しているが、地権者の理解が得られないため現在見通しは立っていない。

<山ノ内明月会町内会・高木会長>

なんとか突破口を見つけてほしい。

<松尾市長>

文化庁は、史跡の指定までしなさいという立場なので、市として開削はないと考えている。

<戸ヶ崎町内会・伊勢会長>

では次の岩瀬隧道について。

<大船町内会・田子会長>

岩瀬隧道は5月29日早朝に崩落し、今現在も通れない。6月18日から10月15日までの期間で調査・設計を行うという回覧が回った。岩瀬隧道を切り通しにするか2車線のトンネルにできないかと市に問い合わせをしたところ、その方法は考えていないと言われたが、地権者も市に売ると言っている。岩瀬隧道に文化財的価値はないはずである。

<都市整備部・森次長>

面積的にも現在、ライナープレートを発注している。トンネル上に住宅もあり、切通しにするには、大きく切らなくてはならない。また、新たにトンネルを作るにも、動線を考えなくてはならない。

<大船町内会・田子会長>

すぐに通していただかないと困る。短いトンネルも土砂が落ちてきている。

<岩瀬町内会・織戸会長>

交通量が非常に増え、バス停に並ぶ人の渋滞ができて近隣住民の車が通れない。小さいトンネルも3月まで通行止めであるから、これを機に開削し、切通しにしてもらいたい。

<今泉台町内会・尾島会長>

今泉台も同じ状況のため、2車線にするか開削して、切通しにしてほしい。

<戸ヶ崎町内会・伊勢会長>

皆さんの生活がかかっているなので、早めに検討を願う。

<高野台自治会・島田会長>

通行禁止に伴う代替の通学路というのはどこになるのか、具体的に教えていただきたい。

<都市整備部・森次長>

後ほど、お伝えする。(懇談後お見せしています)

平成 30 年度ふれあい地域懇談会（第 3 部） 回答票

番 号	大船－H30－2
テ ー マ	ごみ焼却設備について （山崎浄化センター、今泉クリーンセンター）
内 容 詳 細	ごみ焼却設備の山崎浄化センター移転に関する進捗状況及び今後の予定について、どのようになっているのか。 また、今泉クリーンセンターは、今後どのように活用するのか。
担 当 部 課	環境部 環境施設課

議題に対する回答

【ごみ焼却設備の山崎浄化センター移転に関する進捗状況及び今後の予定について、どのようになっているのか】

新ごみ焼却施設の建設候補地は、平成27年4月に「山崎下水道終末処理場未活用地」とすることを公表し、その後、平成27年10月近隣自治町内会で構成する「新ごみ焼却施設建設に反対する会」が結成され、これまでの話し合いで、周辺住民の皆様から「2つの迷惑施設を受け入れることは容認できないので、白紙撤回」を強く要望され、話し合いが平行線となっています。

平成29年10月の「反対する住民の会」との話し合いの中で、市長から、「まず、山崎浄化センターの臭気等課題について、新ごみ焼却施設建設とは別に、早急に対応していくことを説明した上で、新ごみ焼却施設の建設に関しては、負担の公平性という非常に切実な意見をいただいていることを十分に認識し、新ごみ焼却施設建設を基本とするが、ごみ処理は広域連携等さまざまな手法が考えられることから、もう少し協議の枠を広げていきたい。」旨を説明しました。

これを踏まえて、平成29年11月に鎌倉市・逗子市・葉山町ごみ処理広域化検討協議会において、「鎌倉市の可燃ごみを逗子市の施設で焼却することを視野に入れた、広域連携の可能性について検討いただきたい。」旨を要請し、了承され、検討を進めてきました。当初結論は、平成29年度中を目処にしておりましたが、今後のごみ処理体制という重要な判断をするための判断材料が全て得られていないため、引き続き検討することになりました。

【次ページあり】

平成30年3月に、10回目の「反対する住民の会」と話し合いを行い市長から「可燃ごみの広域連携の検討について、判断するための熟度に達していないため結論を出せなかった旨を説明するとともに、改善の約束をしている山崎浄化センターの臭気対策、上部利用の検討及び市が取得したJR引込み線を活用した周辺まちづくりの推進について、新ごみ焼却施設建設とは別に協議検討を進めていきたい」旨を説明し、現在、上部利用等について検討している状況です。

本市の可燃ごみの焼却処理については、新ごみ焼却施設の必要性や可燃ごみの広域連携の可能性等について、本市の安定的なごみ処理体制を構築することを前提に評価を行い、平成30年度末までには市の方針を明確にしていきたいと考えています。

【今泉クリーンセンターは、今後どのように活用するのか】

今泉クリーンセンターは平成27年3月に焼却を停止し、焼却停止後もごみ処理施設として活用することを地元住民の皆さんに説明しております。具体的な活用としては、第3次一般廃棄物ごみ処理基本計画や鎌倉市・逗子市・葉山町ごみ処理広域連携の覚書に基づき、生ごみの資源化を進めるための家庭系生ごみの減容化施設建設を検討しています。

生ごみ減容化は、微生物を活用して生ごみを24時間で約90%減容させるもので、大規模な施設整備が不要で、堆肥の活用も見込め、施設整備費・維持管理費が廉価な手法です。

平成29年度に2回地元住民の皆さんに説明してきましたが、具体的な施設整備に当たっては、今後、専門的な立場から審議会で協議を行い、意見を聴くとともに、地元住民の皆さんに十分な説明を行い、理解と協力を得て進めていきたいと考えています。

添付資料

<戸ヶ崎町内会・伊勢会長>

山崎地区の反対住民は、市はごみ焼却施設を山崎地域に建てることを諦めたのではないかとっているが実際はどうか。

<松尾市長>

何度か話し合いの場を設けさせていただいたが、白紙撤回以外は受け入れられないと言われている。しかし、本市の置かれている状況に時間的余裕はなく、早急にごみ処理を安定化させるため、検討の幅を拡げて協議したいと申し上げた。

まだ住民の方々と協議中のため、さまざまな話が出てきていると思うが、行政として山崎に焼却施設を造ることは決定している。

今泉クリーンセンターの焼却施設の後に造る施設は、今泉・岩瀬・今泉台の方々と協議中だが、生ごみの減容化施設にしたいとお願いしている。

平成 30 年度ふれあい地域懇談会（第 3 部） 回答票

番 号	大船－H30－3
テ ー マ	市役所移転後の支所機能について
内 容 詳 細	市役所の深沢移転が決定したが、支所機能については、今後どのようにしていくのか。
担 当 部 課	行政経営部 行政経営課

議題に対する回答等

各地域の支所においては、証明書の発行等を行う窓口業務や、市民相談業務及び地域支援業務等を行っていますが、市ではこのうち窓口業務について、平成 31 年度中の集約化を検討しているところです。

なお、公共施設再編計画において、窓口業務以外の機能については、地域支援のあり方等を考えつつ、将来的には、地域拠点校に複合化する方針としています。

添付資料

<大船町内会・田子会長>

高齢化のため、本庁に機能が集約されると不便になるので支所機能を残してもらいたい。

<松尾市長>

支所窓口の人員費・システム費用は高額のため、行政改革の視点から縮小・廃止していきたい。大船・深沢・鎌倉を本市まちづくりの三大拠点と考えており、大船の方々の利便性にも配慮し検討したい。

<大船町内会・田子会長>

村岡新駅の新設を見据えたまちづくりを考えているのか。大船駅の混雑の緩和も考えてもらいたい。

<松尾市長>

新駅設置の話はもともと藤沢市議会の決議が発端であるが、新駅は深沢のまちづくりの上で大きなポイントであると考えており、神奈川県・JR・藤沢市・鎌倉市の費用負担の調整に入っている。

深沢のまちづくりに新駅はあった方が良いが、鎌倉市としては、過度な費用負担はできない。市役所本庁舎・消防本部・体育館・グラウンド・公園を行政施設として盛り込み、31 畝の広大な土地に企業誘致もしたいと考えている。武田薬品、中外製薬、東レなど、健康・医療・バイオなどの成長産業の企業が近くにあるので、神奈川県と連携して関連するベンチャーも含めた企業誘致を進めていきたい。「ウェルネス」というテーマを掲げ、健康な市民生活が送れる環境を土台としたまちづくりを考えている。

【その他のテーマについて】

＜谷之前自治会・山根会長＞

未定の大きなプロジェクトがたくさんある。ごみ処理場、深沢開発、市庁舎移転、インフラ老朽化対策など、お金がかかり、時期がいつになるか分からないことばかり。

住民の立場に立ち、住民の利益になることをしていくこと、経費節減に注力し、後に悔いを残さない形にしていきたい。

インフラの老朽化対策については、災害が起こると他に代替ルートがない場所が多い。どこから手をつけるかLCC（ライフサイクルコスト）手法なども駆使して取り組んでほしい。

＜今泉台町内会・尾島会長＞

ごみ屋敷問題に総合的に対策を出してほしい。

＜環境部・石井部長＞

いわゆるごみ屋敷対策条例を施行し、警察など関係機関と連携し、堆積者への寄り添い、大量のごみの処理など地元に報告しながら、逐次進めていきたい。

＜今泉台町内会・尾島会長＞

土地の寄附を受け、集会場として使っている建物を建て替えようとしているが、市街化調整区域にあり、また、建物が個人住宅として登録されていたため、市から違法建築であると言われている。建て替えについて相談にのってほしい。

＜松尾市長＞

個別に相談を受けたい。

＜大船地区社会福祉協議会・梅澤氏＞

セットバックした部分をきれいに保ってほしい。

＜山ノ内下町上町内会・亀井会長＞

セットバックした部分を道路として、買い取ってほしい。

＜都市整備部・森次長＞

狭あい道路拡幅整備事業としてセットバックした用地を買い取る制度があるが、各家庭の事情で進んでいない。

<山ノ内下町上町内会・亀井会長>

民有地だから、市が介入できない事情も分かるが、何かメリットを設ければ買い取りが進むのではないかな。

<大船町内会・田子会長>

小学校の倉庫がなくても物資が届けられるよう、鎌倉に5つあるクリエイトと提携し、その商品が小学校に入ってくるようにしてもらいたい。

<松尾市長>

検討したい。

<山ノ内中町北町内会・山田会長>

大船に大学ができるという話があるがどうなのか。

<松尾市長>

介護専門大学ができる予定である。

<山ノ内下町上町内会・亀井会長>

文化財である巨福呂坂を、公開・見学できるようにしてもらいたい。

<文化財部・榊淵部長>

道は市道であるが、滑落の危険もあり、なかなか難しい。

市が管理する史跡は未公開のものが多いため、公開できるよう有識者を交えた検討会を今年から設けて知恵を絞りたい。

付 録

当日配布資料

- 1 地区別危険箇所マップ
- 2 鎌倉市市政e-モニター登録のご案内
- 3 鎌倉市ふるさと寄附金